



「当たり前」の素晴らしさ

今、サッカーワールドカップ・カタール大会の2次予選が行われ、日本は順調に試合を進めてきています。このワールドカップで忘れられない出来事がありました。といっても、試合内容や選手のことはではありません。日本人サポーターの行動が注目されたのです。

2014（平成26）年に開催されたブラジル大会での出来事です。初戦で日本は惜しくも敗戦。しかし、その後のサポーターの行動が全世界のネットやメディアで絶賛されたのです。彼らは、客席を日本代表チームと同じ「サムライブルー」に染めるために青いビニール袋を使用していました。試合後、サポーターはそのビニール袋を活用し、ゴミを拾い、後片付けをしてからスタジアムを後にしました。この行為が絶賛されることとなります。地元の新聞は「日本代表チームは敗北したが、応援団のカリスマ性はブラジルの人々の心をつかんだ」と報道し、リオデジャネイロ州政府は、その行為を称えるため、サポーター代表として駐リオ日本総領事や地元日系団体代表を表彰しました。「言葉が通じなくても動作だけで素晴らしさが伝わってきた。日本人の行動は文化的な遺産だ」という賞賛の言葉もいただきました。この行動は、日本人サポーターにとって特別のものではありませんでした。日本が初めてワールドカップに出場したフランス大会から行ってきた「当たり前のこと」だったのです。でも、この当たり前のことができないのが現実なのです。だからこそ新聞で紹介されたのです。

では、なぜ日本人サポーターは「当たり前」のことができるのでしょうか。それは、自分のことよりも周囲の人のことを優先して考えることができるからです。そこには「感謝」や「思いやり」といった気持ちが強く含まれています。靴をそろえたり、ゴミを拾ったり、挨拶をしたりといった私たちが当たり前に行っていることは、実は「感謝」や「思いやり」の気持ちを含んだ素晴らしい行為なのです。

鳴見台小学校でも「3つの『あ』」という合言葉で、当たり前の行為が当たり前に見える児童の育成を目指しています。「あいさつ、歩き方、後始末」

気持ちのよい挨拶をし、室内では静かに歩き、使ったものはきれいに片付ける。すべて、自分以外の周囲の人のことを考えた、思いやりで満ちた行為です。6月の生活目標は、「トイレのスリッパを並べよう」です。後から使う人のために、スリッパを並べることのできる鳴見っ子に育てていきたいです。



避難情報（気象情報）に伴う学校の対応について

5月20日に気象庁が提供する防災気象情報に変更になりました。そこで、新たな避難情報と学校の対応について、整理したのでお知らせします。

警戒レベル	気象庁	長崎市	登校前	登校後
1	早期注意情報		・通常登校	・通常授業
2	注意報	第1次防災体制 第2次防災体制	・通常登校	・通常授業
3	大雨警報 洪水警報	高齢者等避難	・登校 ・自宅待機（臨時休校）※1	・通常授業 ・早めの下校
4	土砂災害警報情報	避難指示	・自宅待機（臨時休校）※2	・集団下校
5	大雨特別警報	緊急安全確保	・一斉臨時休校	・引き渡し ・学校待機

※1 登校前に警戒レベル「3」となった場合は、午前7時までに「登校」か「自宅待機」か「臨時休校」を学校が判断します。

※2 警戒レベル「4」となった場合は、「自宅待機」か「臨時休校」を学校が判断します。

【 当日の学校からのお知らせは、安全・安心メールを利用します。】